

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 「国際事業化研究センター」でデスクワークに励む今野さん。企業人としての経験も人脈も豊富で、交渉事やアドバイスでも本領を発揮。語り口調も穏やかで、学生や研究者、地域や企業にとっても頼もしい存在だ。

2 8mmカムコーダー/VHSデッキの商品企画時代。ソニーUSAに出張した際、会議終了後の懇親会でのひとコマ。年に数回、全世界の販売会社の拠点に出張し、今後の商品戦略について議論していた。

3 デバイス開発本部の開発企画部時代、ノーベル化学賞受賞者の根岸英一教授と。ソニー特別研究顧問だった根岸教授が厚木にあるラボの研究現場を訪れ、若手研究者たちと対面。今野さんの手にはノーベル賞のメダル。

新しい知識を得る楽しさを糧にキャリアアップ、 大企業で女性リーダーの魁として活躍。

今野千保 山形大学産学連携教授、国際事業化研究センター 副センター長(センター長代行)

日本を代表する大企業ソニーの中核で、コンシューマビデオのヒット商品の企画やデバイスの開発企画を統括していたのが女性で、しかも本学教育学部(現・地域教育文化学部)の卒業生であることを知る人は少ないのではないだろうか。2011年までソニー株式会社で商品企画・マーケティング、開発企画などを担当してきた今野千保さんは、鶴岡市生まれの本学OG。「これからの時代、女性も資格を持つべき」と大好きな英語の教員免許取得を目指して本学に学んだ。大学では高校の先輩の勧めもあってESS(英語会)に入学し、ハイキング、英語劇など多彩な活動でキャンパスライフを満喫。他学部と合同のサークルだったこともあり、「現在も続いているOB会は、異

業種交流会のようで楽しい」と笑顔で語る。卒業後は、もっと英語力に磨きをかけたいという思いから、東京の語学系専門学校へ。その後、就職難の時代に語学力を武器に、ソニーへの就職を決めた。

USA企業とのプロジェクトの手伝いをするうちに、徐々に商品企画部署の中心的な存在になっていった。技術のことは何もわからなかったという今野さんだったが、それがむしろお客様目線での商品開発という点ではプラスに作用し、ヒット商品へと結びついていった。もちろん、技術については必死で勉強をした。周囲のエンジニアを質問攻めにし、現物を自分の目で確認して、少しずつ技術系の知識を身につけていったのだ。

女性リーダーの先駆けとも言える今野さんが大切にしているものは、縁と信頼関係。出会った人との縁を大切に、信頼関係を築くことに努めてきた。ソニー退職後の2012年4月からは、産学連携教授および国際事業化研究センター副センター長として本格的に就任。センターでは学内研究者に対して実験室スペースの貸与や知的財産権の取得に関するアドバイス、海外講師招聘プロジェクト公募によるグローバルネットワーク形成支援など、さまざまな活動を行っている。さらに、産業界の次代を担うリーダーの育成や地域の活性化などへの貢献にも期待がかかる。縁あって今野さんと出会えた学生や研究者、企業には新たな可能性が広がるに違いない。

先駆の成果